

# 令和3年度 第3回 大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時:令和4年2月 24日 16:30~17:30

出席者(敬称略) 協議会委員 山崎 彰、三木 俊博、宮坂 政宏、  
田村 知子、浅田 勝利、後藤 淳

校 長 平野 裕一

事 務 局 藤縄 真敬、松本 恵美子、安福 一貴、城台 祐樹

## 次 第

### 1 校長挨拶 平野校長

コロナ禍で大変な1年だった。臨時休業はなかったが、イベントの縮小、感染者の自宅待機などあった。できる限り早い時期にもとの状態に戻りたい。規模は縮小するが、卒業式もする予定。

### 2 会長挨拶 山崎会長

オミクロン株がこれほどまでに蔓延するとは思っていなかった。この状況で最善をつくしている教職員に感謝している。こういった経験を教育の向上につなげられるよう助けとなりたい。

### 3 協議・報告 協議委員・事務局

#### (1) 令和3年度 学校経営計画・学校教育自己診断について

(事務局) 学校教育自己診断について。生徒アンケートの結果、概ね目標を上回った。

(委員) 数字が上がってよい結果。「自分の考えをまとめて発表する力」と学力とは相関が強いので、単にやるのではなくエビデンスベーストでやってほしい。

自己肯定感の低い子は学力に関係なく存在する。だいたい20%程度はいる。そういった子に対して今後も取り組んでもらえたら。

(校長) 自己肯定感を上げることも指導教諭を中心に進めた授業改善、公開授業大会のコンセプトの1つであった。このことについて指導教諭から一言。

(事務局) 自己肯定感はなかなか上げられるものではないので、長期的に取り組んでいる。

(会長) 在学中に簡単に伸ばせるものではない。卒業生の追跡調査などもしていただければ。

エビデンスベースの話ができたが、情報が多い時代なので生徒自身がクリティカルシンキングを働かせて情報の取捨選択を。

(校長) GLHS 10校の卒業生の調査を来年度中に実施予定。

(委員) 進路、項目11「学習の意欲が上がる取り組み」の具体例を聞かせてほしい。

(校長) 2年生は近畿大学の先生の講演会、1年生は課題研究に関する講演を実施。

校長自らも「受験脳」の話などを実施した。

(会長) コロナ禍でこのいい評価はすばらしいこと。次年度にもつなげてほしい。

(2) 令和4年度 学校経営計画について

(校長) 骨子、めざす生徒像は変更なし。中期的目標の3本柱も変更なし。次年度は新しく4点目の柱として、「スクールミッションに基づくスクールポリシーの策定とさらなる魅力ある学校づくり」を新たに設置。スクールポリシーに関する項の共通理解の推進、スクールミッション、スクールポリシーについての校内周知を進める。スクールカウンセラーの拡充なども行う。

(委員) スクールポリシーの策定の期限は？

(校長) ゴールデンウィークから府教委から詳しい方針がでる予定。令和4年度～5年度が目途。

(委員) 私は制度化には後ろ向きだったが、今回制度化されたので、生徒が豊高を卒業したら自分がどうなるのか、イメージが湧くようなものを作ってほしい。

(会長) 制度化に後ろ向きだった理由は？

(委員) 反対というわけではないが、制度化されると「作る」ことが目的になってしまいがちなので、そこは気をつけてほしい。子どもたちのためにならないということは避けたい。

(校長) 同感。作ることが目的にならないように。子どもたちのためになっているのかを確認しながら作業を進めていけるようにしたい。

(委員) みんな力を合わせて、参画する人を増やし、共通ビジョンを。

(委員) 目的は何なのかを明確にして、その達成に向けての人的資源をどう使うか。これまでも行ってきた有形、無形のを整理できれば。

大阪府全般に気になるのは、働き方改革。教員の勤務時間だけが問題になっている。勤務時間も大切だが、教職員が力量を発揮できるようにする方が大切。先生の仕事はハードワーク。働きすぎるとバーンアウトする。そうではなく、メンタルヘルスの領域でよく言われるエンゲージメントを。それがあればハードワークであっても生き生きと働ける。働き方改革は働く時間よりもやりがい。豊中はエンゲージメントも持っていると考えている。

(校長) 働き甲斐や教員間の人間関係、保護者対応のストレスなどに対して、管理職としてストレスチェックや個人面談でケアしている。さらに、転任の先生がストレスを軽減できるように豊高スタンダードを開発している。

(事務局) 現状、データによると量的負担は高いが人間関係がよくなっている。

(会長) 良い視点。数字だけを改善すればよいというわけではない。

(委員) 残業が800時間を超えた先生がひとりおられるということだが、具体的にどんな対応をしたか。

(校長) 当該教員とも話をした。大きな要因は部活動の付添いと教材研究にのめりこんで帰るのが遅くなる。一部の付き添いについては他の顧問の先生にお願いしたり、それ以外の仕事も若い先生に仕事をふったりするようにアドバイスをした。

(会長) 教員は自分が関わる生徒をじぶんで面倒みたいという気持ちになってくる。できる限りのコントロールを。

(委員) 本校も悩んでいる。テストの採点の AI 化などによる業務量の軽減に向けて、中堅層が中心となって思案中。今、トップ高以外は公立離れが進んでいる。学校のスタンダードを示すのは素晴らしい。義務教育では難しい部分もある。

(校長) 採点ソフト導入は本校も行う。それによりフィードバックがたやすくできるのであれば、その部分も含めて改めて活用していきたい。働き方改革でいえば、アウトソーシングを増やしている。外的な刺激を受けることで、生徒の反応もよかった。今後も働き方改革において大切になってくるのでは。

(会長) 経営計画について、中期的目標の項目の「進路を切り開く学力の育成」という文言について、学力だけが進路を切り拓くものなのか。豊中高校は将来のビジョンを持たせて自律的に学ばせるように取り組んでいるので、少し気になった。

(委員) 広報活動について。どうやって学生を集めるか。豊高は困っていないだろうが、これだけ素晴らしい活動をしているのだから、小中高連携でグローバルな子をどう育てていくか、といった視点で広報活動していけないか。進学実績だけではなくて、卒業生がどういうキャリアを積んでいるかなど示せれば。

(校長) コロナ禍で説明会は zoom で行っている。それ以外に学校見学会をやっているが、生徒同士の交流は中止にしているが、近所の小学生を招いて宇宙飛行士と交流するといったプログラムも実施予定。

(会長) 魅力的なアピールを。豊高めざす子が作れば。

### (3) 豊高教員スタンダードの策定について

(事務局) 前回から大きく変わっていないが、先生からのアドバイスをアンケート中。今年度の担任からの最新のアドバイスもアンケートをとる予定。また、府立学校に関する指示事項から逆算して豊高での取り組みにつなげる。

(委員) どういうふうに進めるか。

(校長) 首席中心に進めている。企画会議（管理職・首席・指導教諭）で話し合いを重ねている。

(委員) 形だけにならないように。

(会長) みんなで作っていくというのが大切。社会情勢などに合わせて柔軟に取り組んでいくのが大切。

### (4) その他

(校長) 協議会も今年で4年。各委員の任期2年が基本だが、継続して入っていただいている委員も。次年度に向け、新たなメンバーを検討していきたい。